



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学檜山地方演習林の生物相（Ⅰ）
Author(s)	杉山, 弘; 夏目, 俊二; 品田, 真弓 他
Citation	北方森林保全技術, 第17号, 54-58
Issue Date	1999-10-29
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/72916
Type	departmental bulletin paper
File Information	1998_1-13.pdf



I-13 北海道大学檜山地方演習林の生物相 (I)

南ステーション

演習林研究部

檜山地方演習林

杉 山 弘

夏 目 俊 二

品 田 真 弓

森 いね子

五ヶ市 幸 子

佐 藤 千鶴子

芹 沢 俊 介

渡 辺 幹 男

橋 本 秀 樹

野 村 冬 樹

愛知教育大学教育学部

鳥類標識調査員・動物写真家

北海道大学大学院地球環境科学研究科

はじめに

今まで檜山地方演習林（以下、檜山林とする）の生物相について、まとまった報告は行われていない。そのため檜山林の第2期長期計画（1995～2004年）において「道南地域の生物相の保全」という課題を掲げ、檜山林における生物相のリストを作ることになった。

本報告では植物と動物（大型哺乳類・野ネズミ・鳥類）について、現段階でまとめることのできるものについてリストを作成した。また、他の研究者によるものとして、昆虫類の蟻相についての報告がある。このように今まで特定の分野についての調査がいくつか行われている。しかし、文献等が散逸しているため、今回は上記以外の、例えば爬虫類や魚類・菌類などについての報告は行わない。いずれかの機会に文献等を取り寄せ、報告できればと考えている。

植物相

植物相については、1996（平成7）年から夏目・芹沢・渡辺教官らの指導による愛知教育大学教育学部生物学教室の生物実習がおこなわれ、檜山林内の植物相リストを作成した。1998年現在で秋植物の一部で全サンプルがそろっていないものの、大半をカバーできるサンプルを採取し、同定作業が終わっている。1999年の同大学実習ですべての同定作業が終わる予定である。1996年時点で種数は樹木も含めて213種となっている。

また同時期に、森林科学科環境資源学専攻森林資源科学講座（旧造林学教室）の矢島助教授らによる春植物の同定作業も行われている。これらのデータは写真情報も含めて、いずれ北海道大学農学部附属演習林ホームページ上で公開する計画である。

1996年の実習で同定が終わった主な種構成についてリストを表-1に掲げた。作成者は愛知教育大学芹沢教授、渡辺助教授、生物学教室4年目学生らである。

動物相(野ネズミ)

動物相については、プロジェクト研究Dで野ネズミの長期動態観察が行われた。常駐職員撤退に伴い観測は中断することになった。観察地はブナ群集自然生態観察林である。1996年に長期観察林（0.50ha）を設定した。林相はトドマツの大径木を含むブナ主体の広過混交林である。下床には1984（昭和59）年に樹下植栽したヒノキアスナロ植栽地であったが、不成績のためもとの天然林へ林種換えした箇所である。

当初の目的は、ブナ種子の豊凶による野ネズミ個体群の変動の推移を観察することであったが、種子トラップなどの体制が整わず野ネズミ動態のみ観測していた。

観測期間は1996～98年の3年間と短いため変動パターンの判断は困難である。ここでは

単に観測データだけを公表することにした。

観測結果を表-2に示す。調査に当たったのは夏目俊二、杉山弘、森いね子、五ヶ市幸子である。表の作成は杉山が行った。なお、トガリネズミについては種名の同定はできなかったので「トガリネズミ」と記載した。参考までに1992年の北海道環境科学研究センター刊「すぐれた自然地域—自然環境調査報告書—道南圏域・道央圏域」の「大千軒岳周辺（上ノ国町）の哺乳類」によると、渡島半島域で確認されているのはオオアシトガリネズミとなっている。

動物相（鳥類）

鳥類については1997（平成8）年秋に杉山弘が鳥類標識調査員の橋本英樹氏の協力を得て、標識調査による渡り調査を行った。そのときのリストにプロジェクト研究Dの大型鳥獣記録票の記載データを加えたものを表-3に示す。記録票の記載者は夏目俊二、杉山弘、品田真弓、佐藤千鶴子である。表の作成は杉山が行った。

なお、このほか上ノ国町内においてよく観察された鳥は、檜山林庁舎からも近い天の川河口付近で水鳥類のウミウ・マガモ・シロチドリ・トウネン・アオサギ・チュウサギ・ダイサギ・コサギ・オオセグロカモメが見られる。庁舎横を流れる天の川の古川でカワセミを見かけたこともあった。市街地付近の草原で見かけた鳥はコウライキジ・オオジシギ・アトリ・ベニヒワ・ツバメなどである。海岸付近ではまれにイソヒヨドリを見かけることがある。ワシタカ類ではオジロワシ・ミサゴが、夏から秋にかけてサケ科の魚の遡上とともに見かけることがある。

動物相（大型ほ乳類）

大型ほ乳類は、先の大型鳥獣記録票の記載データから明らかになったものを表-4に示す。記録票の記載者は夏目俊二、杉山弘、野村冬樹である。

なお、このほか上ノ国町内において観察された哺乳類として、上ノ国町八幡牧野においてエゾシカを目撃した。渡島半島では狩猟によって一時期絶滅したものの、近年狩猟愛好家らが別の地域から狩猟目的のために導入した個体が増加してきていると、渡島支庁林務課自然保護係阿部係長から説明を受けた。

前出の「すぐれた自然地域—自然環境調査報告書」によると、このほかエゾタヌキ・オコジョ・ホンDOIタチ・エゾクロテンの生息が確認されている。エゾタヌキについては上ノ国町内の聞き取り調査の結果、近年人里付近での目撃回数が少ないことがわかった。

エゾモモンガについては厚沢部町内での観察報告はあるものの、上ノ国町内での聞き取り調査では近年の目撃例は無いようである。

また、1997年の鳥類標識調査の際に檜山林内においてコキクガシラコウモリが頻繁に捕獲された。さらにこのとき逃してしまつて種名の特定はできなかったものの、翼を広げた大きさが約30cmにもなるコウモリが捕獲された。ちなみに前出の道環境科学センターの報告書によると、ヒナコウモリとウサギコウモリが函館付近で確認されている。

昆虫（蟻相）

昆虫については、蟻相について水谷章（北海道大学演習林研究報告36巻第2号509-516）による「檜山地方演習林の蟻相」という報告がある。表-5に種構成を、表-6に生息環境別の生息数を示す。なお原文が英語のため、種名はすべて学名でかかれていた。しかし、論文が書かれた当時からさらにアリ科の分類が進み、新たな学名や表記が変わったものがある。ちなみに今回の分類等は日本蟻学研究会らが中心となって作成した「日本産アリ分類の分類検索に関するデータベース（1997 2追加版）」を使用した。

表－1 檜山地方演習林において観察された植物

分類群	種・雑種	亜・変種	品種	計
シダ植物	27			27
裸子植物	6			6
被子植物				
双子葉植物・離弁花類	90	1		91
双子葉植物・合弁花類	52	2	1	55
単子葉植物	34			34
合計	209	3	1	213

* 1996年7月～8月愛知教育大学生物学実習による

表－2 檜山地方演習林における野ネズミ生息調査数の推移

種名	1996春	1997春	1998春	総計
エゾアカネズミ	0	4	31	35
エゾヤチネズミ	0	2	37	39
トガリネズミ	1	0	1	2
ヒメネズミ	11	6	30	36
総計	12	12	99	112

種名	1996秋	1997秋	1998秋	総計
エゾアカネズミ	21	1	13	68
エゾヤチネズミ	1	6	20	27
トガリネズミ	3	1	1	5
ヒメネズミ	17	13	13	26
総計	42	21	47	126

* 調査地 9林班ブナ群集自然生態観察林 O 50ha(50×100m)

表－4 檜山地方演習林において観察された哺乳類

目	科	和名	学名
ヨクシュ目	キクガシラコウモリ科	コキクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus cornutus</i>
ウサギ目	ウサギ科	エゾユキウサギ	<i>Lepus timidus</i>
げっ歯目	リス科	エゾリス	<i>Sciurus unlgaris</i>
	ネズミ科	エゾヤチネズミ	<i>Clethrionomys rufocanus</i>
		エゾアカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>
		エゾヒメネズミ	<i>Apodemus argenteus</i>
食肉目	クマ科	ヒグマ	<i>Ursus arctos</i>
	イヌ科	キタキツネ	<i>Vulpes vulpes</i>
	イタチ科	ホンドテン(キテン)	<i>Martes melampus melampus</i>
計		9種	

表-3 檜山地方演習林において観察された鳥類

鳥類	和名	学名	鳥類	和名	学名
シギ科	ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>	ヒタキ科ウグイス亜科	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>
フシタカ科	トビ	<i>Milvus migrans</i>		ヤブサメ	<i>Cettia squameiceps</i>
	ソミ	<i>Accipiter gularis</i>		キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>
ハヤブサ科	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>		シマセンニュウ	<i>Locustella ochotensis</i>
フクロウ科	コノハズク	<i>Otus scops</i>		エゾセンニュウ	<i>Locustella fasciolata</i>
	オオコノハズク	<i>Otus bakkamoena</i>		オオヨシキリ	<i>Acrocephalus arundinaceus</i>
ライチョウ科	エゾライチョウ	<i>Tetrastes bonasia</i>		コヨシキリ	<i>Acrocephalus bistriceps</i>
ハト科	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>		メボノムシクイ	<i>Phylloscopus borealis</i>
ホトギス科	カソコウ	<i>Cuculus canorus</i>	シジュウカラ科	ヒガラ	<i>Parus ater</i>
	ツンドリ	<i>Cuculus saturatus</i>		シジュウカラ	<i>Parus major</i>
ヨタカ科	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>		ヤマガラ	<i>Parus varius</i>
キツンキ科	ヤマゲラ	<i>Picus canus</i>	エナガ科	エナガ(シメナガ)	<i>Aegithales caudatus</i>
	クマガラ	<i>Dryocopus javensis</i>	ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>
	アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	メジロ科	メジロ	<i>Zosterops japonica</i>
	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	ホオジロ科	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>
	コアカゲラ	<i>Dendrocopos minor</i>		カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>
ヒバリ科	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>		ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>
セキレイ科	セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>		アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>
ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>		クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>
モズ科	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>		オオジュリン	<i>Emberiza schoeniclus</i>
レンジャク科	キレンジャク	<i>Bombycilla garrulus</i>	アトリ科	カフラヒワ	<i>Carduelis sinica</i>
ミソサザイ科	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>		マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>
ヒタキ科ソグミ亜科	コマドリ	<i>Erithacus akahige</i>		イスカ	<i>Loxia curvirostra</i>
	ノゴマ	<i>Erithacus caliope</i>		ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>
	コルリ	<i>Erithacus cyane</i>		ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>
	ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus</i>		シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>
	ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>	ハタオトリ科	スズメ	<i>Passer montanus</i>
	ノビタキ	<i>Soxycola torquata</i>	ムクドリ科	ムクドリ	<i>Sturnus cineraceus</i>
	トラソグミ	<i>Turdus douma</i>		コムクドリ	<i>Sturnus philippensis</i>
	クロソグミ	<i>Turdus cardis</i>	カラス科	カケス(ヒキマカス)	<i>Garrulus glandarius</i>
	シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>		ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>
	ソグミ	<i>Turdus naumanni</i>		ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>
	キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>			
	ムギマキ	<i>Ficedula mugimaki</i>			
	オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>			
計			67種		

表-5 檜山地方演習林の蟻相

アリ科	和名	学名
ヤマアリ亜科	トビイロケアリ	<i>Lasius niger</i>
	ハヤシケアリ	<i>Lasius hayashi</i>
	カワラケアリ	<i>Lasius sakagami</i>
	クロクサアリ	<i>Lasius fuliginosus</i>
	クサアリモドキ	<i>Lasius spathepus</i>
	テラニシケアリ	<i>Lasius teranishii</i>
	キイロケアリ	<i>Lasius flavus</i>
	アメイロケアリ	<i>Lasius umbratus</i>
	クロヤマアリ	<i>Formica japonica</i>
	エゾアカヤマアリ	<i>Formica yessensis</i>
	アメイロアリ	<i>Paratrechina flavipes</i>
	ムネアカオオアリ	<i>Camponotus obscuripes</i>
	クロオオアリ	<i>Camponotus japonicus</i>
フタフシアリ亜科	ヤマトアシナガアリ	<i>Aphaenogaster japonica</i>
	アシナガアリ	<i>Aphaenogaster famelica</i>
	ムネボソアリの仲間	<i>Leptothorax sp.A</i>
	アズマオオズアカアリ	<i>Pheidole fervida</i>
	シワクシケアリ	<i>Myrmica ruginodis</i>
	エゾクシケアリ	<i>Myrmica lobicornis</i>
	ヒメメクラナガアリ	<i>Stenamma nipponense</i>
	メクラナガアリ	<i>Stenamma owstoni</i>
ルリアリ亜科	シベリアカタアリ	<i>Dolichoderus sibiricus</i>
計	10属22種	

表-6 檜山地方演習林における森林別のアリ生息巣数

アリ科	和名	天然林	ブナ二次林	人工林	合計
ヤマアリ亜科	トビイロケアリ	4	5	28	37
	ハヤシケアリ	3		2	5
	アメイロケアリ		1		1
	クロクサアリ		3		3
	クサアリモドキ			1	1
	クロヤマアリ			2	2
	アメイロアリ	7	8	39	54
	ムネアカオオアリ	4	1	4	9
フタフシアリ亜科	ヤマトアシナガアリ	14	25	49	88
	ムネボソアリの仲間			1	1
	アズマオオズアカアリ	5	3	3	11
	シワクシケアリ	19	4	22	45
ルリアリ亜科	シベリアカタアリ	2			2
合計		58	50	151	259